国語科学習指導案

実　施　日　　平成２３年1月２１日（金)
実施クラス　　２年３組
授　業　者　　荒川　明子

1　指導単元　　課題図書「卵の緒（瀬尾まいこ著)」を読む

2　単元設定の理由

本校では、「学力向上」のための手だてのひとつとして「読書活動」があげられており、朝読書の時間が設けられている。また、図書委員会からも「図書だより」に本の紹介や読書に関するアンケートを載せるなどして読書へのいざないがなされ、夏休み前には、教職員や保護者からの「お薦めの本」の冊子が出される。

国語科でも、読書活動を発達段階に応じて年間指導計画に組み込み実施している。２年生の締めくくりに入る今、中学校２年間の読書生活を振り返らせて読書の授業の意義を考えさせ、３年生でのより意欲的で充実した読書活動につなげたい。そのため、本授業では、冬休みの課題図書であった「卵の緒」を取り上げ、この２年間に授業で経験した本の読み方を思い出させ、読書のおもしろさに気づかせるとともに読書が自分の成長にどうかかわっているかも振り返らせることにした。

「卵の緒」は、「家族」というテーマがはっきり伝わる作品であり、生徒にとって読みやすく、同じく家族の絆を扱った２年１学期の課題図書「父の詫び状（向田邦子著)」と比べて読むこともでき、課題図書の読書経験を手掛かりに各自の読書生活を振り返らせるのに適切であると考える。

3　単元の指導目標（括弧内は新学習指導要領との関連を示す）

①作品を読み、登場人物の人物像を捉え、テーマを考えさせる。（第２学年「読むこと」イ：文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること）

②作品の内容や表現のおもしろさに気づかせ感想をもたせる。（第２学年「読むこと」エ：文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと）

③２年間の読書生活を振り返らせ、３年次の読書活動の充実につなげる。（同上）

※「言語活動例」との関連

・第２学年「読むこと」ア：詩歌や物語などを読み､内容や表現の仕方について感想を交流する。

・第３学年「読むこと」ウ：自分の読書生活を振り返り､本の選び方や読み方について考える。

4　単元の指導計画（全２時間）

冬休みに課題図書「卵の緒」を読む。

第１時　①一言感想を発言させる。
　　②主な登場人物を確認させる。
　　③「母さん」とその他１～２名の印象に残る登場人物を選ばせ、人物像を読み取らせる。

第２時　①作品のテーマとおもしろさについて考えさせる。
(本時)　②１学期の課題図書「父の詫び状」に描かれた家族の在りようと比較する。
　　③２年間の課題図書への取組み方を思い出すことを通して、読書の意義を考えさせる。

5　授業改善のポイント

（１）　授業改善の視点である「言語活動の充実」から

・学習指導要領「国語」には、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力や考えを言葉で伝え合う能力を育成するための「言語活動の具体例」が明記されている。本授業では、その中の「２年『読むこと』ア」を取り上げ、内容や表現の仕方について感想を交流する場を設けている。また、「３年『読むこと』ウ」の読書活動を振り返る活動も採り入れた。

（２）　授業評価の分析をふまえての改善のポイント

・「発言したり質問したりしましたか」という点の自己評価が１年次より若干改善されたがまだまだ低い。考えをまとめることを面倒に思ったり、間違っていたら恥ずかしいと思ったりすることにその一因があると考え、ワークシートに書き込んで考えをまとめさせ、１時間に１度は発言するという目標をもたせるようにした。

（３）　学力調査をふまえての改善のポイント

・「話すこと・聞くこと」の能力の向上を図るため、他人の考えを聞き取って発言する場を設定した。

6 本時の授業（全２時間のうちの第２時）

	学習事項	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点■評価
導入 5分	・本時の学習目標を把握する。	・ワークシートの項目を確認させる。	・前時に配付されたワークシートを用意する。	
展 開 40分	・主題を考えキャッチコピーにする。 ・作品のおもしろさに気づく。	・主題を考えワークシートにキャッチコピーにして記入させる。 ・小グループになりグループとしてのキャッチコピーを考えさせ、黒板に書いて発表させる。 ・最も適切なキャッチコピーを選ばせる。 ・内容のおもしろさ、表現の工夫などを根拠を挙げて記入させる。 ・発表させる。	・前時に学習した人物像を思い出しながら主題を考える。 ・それぞれが考えたキャッチコピーを持ち寄り、より良いものを作る。 ・グループの代表が黒板に書く。 ・最も適切と思うものに挙手する。 ・再読しながら記入する。 会話が生き生きしている　登場人物が皆温かい 母さんの考え方や発言が大胆　書き出しの一文 伝えたいことがはっきりしている　など	・前時に自由に２～４人のグループを作らせておく。 ・発表を聞きながら必要事項を書き加えさせる。 ■根拠を挙げて発言している…B
	・「父の詫び状」と比較する ・読書生活を振り返る。	・１、２年の課題図書を思い出させる。 ・「父の詫び状」に描かれた家族と「卵の緒」に描かれた家族とを比較する。 ・読書の授業で得たもの、自分と読書のかかわりなどを振り返らせる。	・１年、２年の課題図書とその授業を思い出す。 ・共通点と相違点をワークシートに記入し、発表する。 ・読書の授業と自分の読書生活について振り返り、ワークシートに記入する	・課題図書は１年生６冊、２年生では今まで５冊(資料参照) ・机間指導しながら適切な記入を促す。
まとめ 5分	・読書生活を振り返っての感想を発表する。	・挙手または指名によって数名に発表させる。 ・ワークシートを提出させる。	・思いを伝えるために適切な表現を使って発表する。	■ワークシートに適切な記入がある…B 深く考えて多くのことを記入している…A

7　単元の評価（授業中の観察　発言　ワークシートの記入　定期考査）

・描かれた人物像と作品のテーマを理解し、併せて自分の読書生活を振り返ることができた…B
・人物像を多面的に捉え、作品のテーマを理解し、自分の読書生活を積極的に振り返り、次年度の読書に意欲をもっている…A
・Ｃへの手だて…手掛かりとなる箇所を指摘したり、具体的なポイントを示したりして記入させる。

8　本時の板書計画

卵の緒
④主題を考える。
⑤おもしろい点
⑥「父の詫び状」と比べる。
共通点
相違点
⑦読書生活を振り返って

9　授業を終えて

課題図書を授業で取り上げる授業は２年生では２回行った。２回目の今回は、人物像や主題を読みとり感想を交流するという従来の型を踏襲しつつ、今まで学んだことを生かして、主題をキャッチコピーにして表現することを試みた。生徒は適切なキャッチコピーを考えて発表し、この手法は主題をとらえるひとつの効果的な方法になるということがわかった。また、読書生活を振り返るという３年生の言語活動例も組み込んだが、浅く振り返らせるにとどまった。しかし、２年生のこの時期に読書生活を振り返ることは、３年生での読書に対する意識づけになった。